

木造軸組工法住宅における国産材利用！

日本木造住宅産業協会が昨年行った国産材利用の実態調査の報告書を手に入れましたのでその概略を纏めて見ました。日本木造住宅産業協会に加盟している会員の調査である為、全国的な傾向とは若干違うと思われませんが、プレカット工場のデータと比較してみました。

*住宅の基本モジュールは@910が80%、@1000が18%でした。

プレカット工場（P工場）でも@910が87%、@1000は5%です

*接合方法では住宅会社の44%が金物工法を採用していますが、P工場では13%です。

*建物の階数は2階建てが84%、平屋が12%、P工場では2階建てが82%、3階建てが11%と平屋建てを上回っています。

*横架材は国産材の比率が10%となったが、集成材は全体の8%となっている。

P工場では国産材が8%、輸入材が92%で、集成材は70%となっています。

*構造用合板は75%が国産材で杉が増えてはいるが、異樹種混合が全体の49%です。P工場では国産材は70%、異樹種混合は58%になっています。

*管柱から羽柄材までの使用量は国産材が38%と過去最高になったが、P工場では24%と減少した。いずれも製材品は減少し集成材の比率が増えている。

*最後に国産材を使用する理由は①イメージが良い（地球に優しい…）②地産地消の推進③品質が良い。等の意見が多かった。しかし、P工場では国産材を使用しない理由として①必要な時に必要な量が確保できない②外国産材に比べ強度等の品質が劣る③外国産材に比べ価格が高い 等が上げられています。

その他、部位別の分析や使用量など細かな数値が掲載されていますが、全体的に見て協会会員（住宅供給者）、P工場共に集成材への移行が進んでいる結果となりました。寸法の安定性から管柱、横架材等の集成材比率は高くなっています。また森林認証材（FSC、SGEC、PEFC）の購入割合への質問には、県産材認証やクリーンウッド法の登録と勘違いしている可能性があるとの事で、似たような制度の整理統合が望まれると思います。

【情報】

大久保洋子と薩摩枇杷の集い！

大久保利通公の玄孫大久保洋子様と薩摩枇杷奏者・鎌田薫水師の講演と薩摩枇杷の集いです。

日時 3月30日（土） PM2:00～3:00

場所 南泉院 啐啄精舎

申込 宮下亮善 099-298-8247

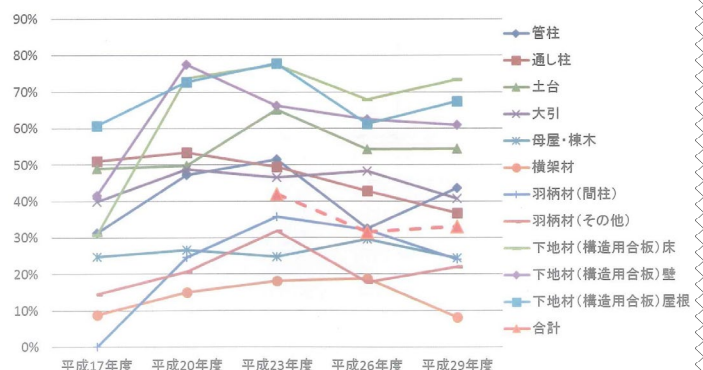
会費 2,000円

【定休日】

3月は3, 9, 10, 16, 17, 23, 24, 31日となります

4月は6, 7, 13, 14, 20, 21, 28日となります

宜しくお願いします



P工場の国産材使用割合の推移